

東京医療保健大学

感染制御学教育研究センター

感染制御実践看護学講座

平成31年度 受講生募集案内



《現職業務を継続しながらの受講が可能》

感染防止対策加算1の要件となる担当看護師の養成基準による講座

東京医療保健大学 感染制御学教育研究センター「感染制御実践看護学講座」は、感染防止対策加算の施設基準のひとつである「適切な研修」として、厚生労働省より認められております。

本講座修了生には、終了証を授与すると共に、感染制御実践看護師の認定証を付与します。

平成 31 年度「感染制御実践看護学講座」募集概要

- ◎募集人員：20名
- ◎受講料：756,000 円（保険料、実習費用等の諸経費を含む）前納一括払い
（その他講座開講中に発生する教材費等については別途徴収する場合があります）
- ◎出願期間：平成 30 年 11 月 1 日（木）～11 月 30 日（金） 必着
- ◎試験日：平成 30 年 12 月 15 日（土）実施 午前 9 時開始予定
- ◎試験方法：小論文、面接、書類審査
- ◎合格発表：平成 30 年 12 月 18 日（火）
- ◎開講日：平成 31 年 4 月 27 日（土）開講（講義、実習等 約 6 ヶ月間）
- ◎問合せ先：東京医療保健大学 感染制御学教育研究センター
「感染制御実践看護学講座」事務局
〒141-8648 東京都品川区東五反田 4-1-17
TEL:03-5421-7685
e-mail: kansenkouza@thcu.ac.jp

詳細は本学ホームページをご覧ください。 <http://thcu.ac.jp/>

感染制御実践看護学講座

感染制御実践看護師育成を目的とし、現在勤務している自施設の業務を継続しながら受講できる教育カリキュラム（週末講義、集中講義、指定施設実習、自施設実習、課題演習など）を編成し、本学の大学院医療保健学研究科（修士課程、博士課程）の感染制御学領域の教育スタッフと、外部の感染制御専門家によって講義が行われます。講義期間中には定期的に課題レポートが課せられ、担当教員より個別指導が行われます。

■施設実習（指定施設・自施設）

指定施設実習は、感染制御を先鋭的に実践している施設において1週間の実習を行います。

自施設実習は、指定施設実習での経験をもとに、自施設の現有組織を活用し日常活動を重視した実習を約2ヶ月間実施します。

■講座修了時

本講座修了試験に合格した看護師には、東京医療保健大学感染制御学教育研究センターから、厚生労働省の感染防止対策加算の施設基準による感染管理に係る専任の看護師として「感染制御実践看護学講座」の修了証を授与すると共に、認定感染制御実践看護師（Certified Professional Nurse for Infection Prevention and Control/PNIPC）の認定証を付与します。

修了生へのフォローアップ体制

本講座修了生へは、フォローアップを目的とした、「医療関連感染情報交換会」を年1回開催し、日々の実践の振り返りとサポートを行います。

修了生からのメッセージ

かどの まさひろ
角 正浩

社会福祉法人日本肢体不自由児協会 心身障害児総合医療療育センター(東京都 板橋区)勤務



私は、感染対策委員会のメンバーとして、日常の業務と兼務しながら、院内の感染制御の活動を行っていました。活動の中で、アウトブレイクを経験し、私自身の知識、判断力、行動力の不足を痛感し、自信を無くしていました。

そんな時に看護部長から「感染制御実践看護学講座」を紹介して頂き、受講を決意させて頂きました。

講座の講義は、専門的でレベルの高さを感じる内容もありますが、講義の一つ一つが、知識を積み重ねる機会となりました。そして、積み重ねたものが、自施設実習の場面で実際に展開をすることに繋がっていきます。特に自施設実習は、自施設の感染制御の問題や課題を明確にすることができました。その問題や課題を解決するために何をすべきか、先生方にご指導を頂きながら自施設で展開ができることは、とても有意義なプロセスとなりました。講座修了後の現在においても、自施設実習での経験が道筋となり、現在も継続して取り組んでいます。

受講前は、自信を無くしていた私も、自施設実習が終盤を迎えた頃、同僚から「たくましくなった」と声を掛けられました。講座を通じて、少しずつ自信を持つことができ、私自身成長をすることができたと思っています。これからも、「感染制御実践看護学講座」での学びが、私の感染制御の礎になっていくと思います。

（平成28年度修了生）



私はリンクナースを数年勤めていましたがそれ程熱心に活動していた訳ではなく、おそらくクラスの中で一番経験が浅く知識も乏しかったのではないかと思います。しかし、感染制御の先駆者である一流の講師陣による講義はとても刺激的で、私はすぐに感染制御の世界に引き込まれました。

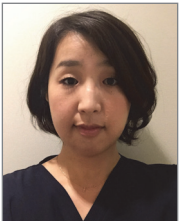
現在、私は精神科病院に勤めています。病室に擦式手指消毒剤を置けなかったり、インフルエンザに罹患してもマスクを着けずに部屋から患者が出てきたりと必ずしも教科書通りの対策が取れるとは限りません。臨床での感染制御には知識をもとにした思考力が求められます。本講座における最新の知見と実践を重視した講義は臨床での感染制御活動に必要な「知識」と「思考力」を身に付けるにはまさにうってつけでした。

「学んで思わざれば即（すなわ）ち罔（くら）し。思うて学ばざれば即（すなわ）ち殆（あやう）し。」

知識や情報を得ても思考しなければ、どう活かせばいいのか分からない。逆に、思考するばかりで知識や情報がなければ、独善的になってしまう。本講座で得た「知識」と「思考力」は感染専従看護師として活動するうえでの羅針盤となるでしょう。

また何より半年間苦楽を共にした仲間との出会いと絆は私のかけがえのない財産となり、私を大きく成長させてくれました。是非、本講座で感染制御の本質を学び、そして最高の仲間を見つけてください。

（平成 27 年度修了生）



私は看護部の委員会活動で感染対策を担当していましたが、院内で感染制御活動をしていくなかで力不足を感じていました。すでに感染制御実践看護学講座を修了した当院の師長から評判を聞いていたこともあり、自分のステップアップになると考え本講座の受講を希望しました。

働きながら勉強できることに加え、自施設の問題を見つめ直して課題を見つけ、その課題について実習し、実際に改善に向けて活動ができることが本講座の一番の魅力だと思います。基礎から素晴らしい先生方に教えていただくことができ、学んだ多くのことをすぐ自施設実習で活かすことができる環境は本当に恵まれていました。そしてひとりひとりに大変丁寧な指導をしてくださり、感謝しております。

また色々な場所から集まった一緒に学んだ仲間とは現在も連絡を取り合い、相談したり情報交換したりしています。そのような仲間と出会えたことも素晴らしい財産となりました。

目的意識を持って学べたこの6ヶ月間は大変有意義なものでした。修了した今も、講座で立案した感染制御プログラムに沿って活動を継続したり、分からないことなどは授業の資料を引っ張り出して確認したりしています。この6ヶ月間は大変でしたが、自分の感染制御を考える力を養うことができたと感じます。（平成 26 年度修了生）



私は感染対策委員会にて活動を行っていた折、ノロウイルスのアウトブレイクを経験し、感染拡大への予期的不安に陥りました。この経験から基礎知識を得ようと考え日本病院会主催の感染制御講習会に参加し、感染制御実践看護学講座を知りました。この時、私はがん化学療法看護認定看護師の資格を取得していました。がん化学療法と感染制御には共通する部分もあり、休職せずに、さらなる知識の習得と、感染制御に関わる資格を得ることができること、感染制御の分野でのトップクラスの先生の講義を受講できることに魅力を感じ、本講座を受講しました。

感染制御の基礎を学ぶことで、より安全に療養生活を提供していくためには、組織力とチーム力が不可欠だと再認識しました。当時、当院は機能評価機構の受審を予定していました。自施設協同ラウンドで小林寛伊先生のご指摘・ご指導が病院を挙げての支援獲得につながり、環境改善が迅速に進みました。

課題提出は大変でしたが、丁寧に何度もご指導いただけたことが、学びにつながったと考えます。講座修了後にはフォローアップ研修もあり、自己の課題の成果を発表する場があり、共に進む仲間たちとの情報共有も楽しみのひとつです。頼もしい仲間と先生方のご支援を得て、今後も感染制御に取り組んでいきます。(平成 25 年度修了生)



私は自施設の感染対策チームの一員として参加した、日本病院会主催「感染制御講習会」の際に、「感染制御実践看護学講座」を知りました。感染防止対策加算 1 の施設基準にある適切な研修のひとつの認定看護師教育課程は 6 ヶ月間の休職が必要なため、参加困難と考えていました。しかし、本講座は現職業務を継続しながら研修を受けることができ、病院管理者の薦めもあり受講を決心しました。

毎週末、広島から東京までの片道 4 時間の通学が継続できるだろうかという不安がありました。しかし、新幹線の車内では「感染制御に関する書籍」をじっくり読み、日頃の勤務で確保しにくい学習時間とすることができたので、想像していたほど苦労はありませんでした。

本講座では、著名な先生方の講義により、最新情報を得ることができます。また、指定施設実習では感染制御実践戦略や全病院職員との良好な人間関係の構築等の“実際”を学ぶことで、講座修了後に、病院の感染制御の「要(かなめ)」として活動する自分の目標とするべき姿を見出すことができました。自施設実習では、実際の活動・介入を課題レポートとしてメールで提出し、指導を受け、多くの問題を解決することができました。

専従の感染制御実践看護師として、講座で共に学んだ仲間とのネットワークを大切にして、しっかり問題解決に取り組んでいこうと考えています。(平成 24 年度修了生)